

令和 8 年度 県立勝田特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像 ◆安全・安心で笑顔あふれる学校		◆一人一人の学びを大切にする学校		◆地域のよさを大切にする学校		
昨年度の成果 (○) と課題 (●)		重点項目		重点目標		達成状況
<p>○児童生徒からの相談への即時対応等、児童生徒支援による安心できる教育環境づくりに努めた。児童生徒による授業評価から、約 94%の児童生徒が「学校は安心できる場所」と感じている。</p> <p>○学校運営協議会制度に基づき、各部において、地域の特色をいかした授業を年間計 20 回実施し、地域との連携を深め、キャリア教育の充実を図った。</p> <p>○全教職員（100%）が勤務時間外在校時間 45 時間以内及び年間 360 時間以内を遵守できた。</p> <p>●教職員コンプライアンス推進計画に基づき、個々の教職員がコンプライアンス意識を醸成できる取組を推進していく。</p> <p>●本年度から実施の県立特別支援学校地域連携体制構築事業を効果的に展開できるように、校内体制づくり及び情報発信・関係機関との連携が必要である。</p>		①一人一人にとって安全・安心な教育環境づくり	ア 安心して学習や生活できる安全な教育環境づくり イ 道徳の授業を中心とした豊かな心の育成、関係機関と連携した指導生徒支援体制の強化（児童生徒支援に関する情報共有 等）			
		②一人一人の主体的な学びを促す授業づくり	ア 主体的な学びを促す授業実践研究の推進（専門家との連携による校内研究の充実） イ 生活に結び付く確かな学力の定着を図る学習指導・支援の充実（適切な学習評価、ICT活用 等）			
		③地域との確かな連携によるキャリア教育の推進	ア 卒業後の生活に必要な社会生活能力の着実な育成（キャリア教育全体計画、社会生活能力検査等の活用） イ 地域資源を効果的にいかした教育活動と交流及び共同学習の推進（コミュニティー・スクール）			
		④センター的機能をいかした地域の特別支援教育の充実	ア 教育委員会や学校・園等との連携強化による特別支援教育巡回相談の充実 イ 学校公開等による特別支援教育に関する積極的な情報発信（県立特別支援学校地域連携体制構築事業 等）			
		⑤教職員一人一人のコンプライアンス確保に向けた取組と「働きがい」「生きがい」を保障するための働き方改革の推進	ア 教職員コンプライアンス推進計画に基づく風通しのよい職場環境づくり、コンプライアンス意識の醸成（定期的・継続的な教職員コンプライアンス実践研修 等） イ 会議時間の短縮や学校行事の見直し等による時間外勤務の削減と児童生徒の指導・支援に係る時間の創出（学校評価等を活用した学校経営・運営の適切な評価 等）			
評価項目	具体的目標	具体的方策		重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営管理教育計画	児童生徒理解の促進と早期対応・組織的な支援体制づくり	<p>◆小・中・高等部会での児童生徒支援に関する定期的な情報交換及び共有、生徒支援部との連携体制（校内委員会）の強化</p> <p>◆緊急的に支援が必要な案件に対する校内支援会議の迅速な開催及び家庭や関係機関との役割分担の明確化</p>		①ーア ①ーイ		
教職員の育成及び指導・監督	児童生徒一人一人の的確な実態把握に基づく主体的な学びを促す教科等の授業実践研究の充実	<p>◆育成を目指す資質・能力を踏まえた目標設定および評価基準を含めた単元計画の作成</p> <p>◆専門家との連携による教科等の授業実践研究の計画的な実施及び各部での着実な授業の振り返り</p>		②ーア ②ーイ		
対外活動	特色ある教育活動に係る情報発信と理解促進	<p>◆報道や学校ホームページ等への積極的な情報発信による本校教育活動に対する理解促進</p> <p>◆特別支援教育巡回相談や地域連携体制構築事業等をとおした地域の特別支援教育の充実への寄与</p>		③ーア ③ーイ ④ーア ④ーイ		

コンプライアンス確保	教職員一人一人のコンプライアンス確保に向けた取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◆教職員コンプライアンスコンプライアンス月間目標の設定と実践研修（年3回×2回）をとおした風通しのよい職場環境づくりの推進 ◆教職員コンプライアンスアンケート結果の分析や観察等によるコンプライアンスに関する意識変容の把握（年4回） 	⑤ーア		
働き方改革	「働きがい」や「生きがい」を保障するための働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◆勤怠管理システムによる時間外勤務状況の把握（時間外勤務月45時間・年間360時間未満）、教職員への積極的な声掛け ◆必要に応じた業務量の調整（会議時間の短縮、学校行事の見直し等）による児童生徒の指導・支援に係る時間の創出 	⑤ーイ		
I C T活用	授業づくりにおけるI C Tの活用促進及び効果検証	◆各部の授業実践研究との連動によるI C Tを活用した授業実践の効果検証及び活用事例の蓄積・教員間での共有	②ーア ②ーイ		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない